

## 講演会・主なセミナー実績

- R5年6月20日 大分県竹田市 大分県「オンライン通いの場推進事業」  
演題：地域と繋がる介護予防セミナー ～10年後の自分や家族・地域のために今、やっておくこと～
- R5年8月3日 宗像市（自由ヶ丘コミュニティセンター）健康福祉部高齢者支援課主催  
演題：地域と繋がる介護予防セミナー ～10年後の自分や家族・地域のために今、やっておくこと～
- R5年10月22日 三重県いなべ市（いなべ市社会福祉協議会主催）  
演題：10年後の自分や家族・地域のために今、やっておくこと～ITで繋がるとは？～
- R5年10月30日 大分県 公益社団法人大分県言語聴覚士協会  
演題：今後の時代変化に伴うICTの活用 ～通いの場への支援の可能性～
- R6年2月1日 大分県別府市 大分県「オンライン通いの場推進事業」オンラインサポーター全体会  
テーマ：オンラインサポーターとしての役割 ～学んだことを地域に持ち帰るために～
- R6年2月22日 福岡県筑前町 地域包括支援センター主催 筑前町地域支えあい活動研修会  
テーマ：支えあい活動をなが～く続けるためには
- R6年3月12日 佐賀県江北町  
テーマ：あふれる情報を正しく知ろう～地域づくりでスマホ活用～

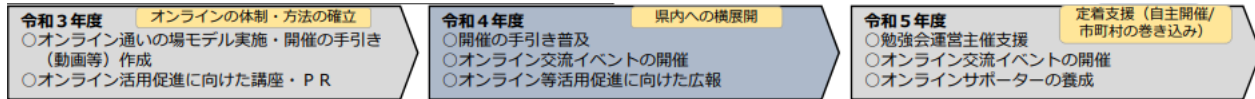
## 主な活動実績

県名	自治体名	事業名	事業開始年度
大分県	県事業	オンライン通いの場推進事業	令和3年度～
福岡県	宗像市	地域介護予防活動支援事業	令和2年度～
熊本県	熊本市	地域介護予防活動支援事業	令和3年度～
福岡県	篠栗町	地域介護予防活動支援	令和3年度～
福岡県	筑前町	生活支援体制整備事業	令和元年度～
佐賀県	江北町	生活支援体制整備事業	令和2年度～
福岡県	鞍手町	生活支援体制整備事業	令和2年度～
福岡県	糸島市	サポーター養成講座	平成28年度～
福岡県	福津市	サポーター養成講座	令和4年度
山口県	下関市	オンライン介護予防教室（タブレット貸与型）	令和4年度
福岡県	桂川町	介護予防普及啓発事業	平成27年度～
福岡県	岡垣町	認知症予防事業	平成26年度～
福岡県	豊前市	介護予防普及啓発事業 オンライン介護予防教室（タブレット貸与型）	平成27年度～
福岡県	筑前町	介護予防普及啓発事業 生活支援体制整備事業 認知症サポーター活動促進事業	令和元年度～
福岡県	篠栗町	介護予防普及啓発事業	令和3年度～
佐賀県	吉野ヶ里町	認知症地域ケア向上事業	令和元年度～
千葉県	白子町	介護予防システム利用 （LINE公式アカウント「脳若365」情報配信システム） ・通いの場や生活支援情報『知っ得マップ』	令和5年度～

# 主な活動内容

## 【大分県 オンライン通いの場推進事業】

本事業は、令和3年から3カ年が経過し最終年を迎えた。これまで立ち上がったオンライン通いの場やモデル地域（竹田市）を中心にオンラインサポーターを活用しながら支援を行った。本事業では離れていても、オンラインで繋がることが可能で、これまで交流のなかった人々と学び会えることを実感したという声を多く聞いた。今後はこれまで配布したパンフレット、資料、動画を活用しながら、学んだ知識を地域に持ち帰り、実践し、継続することを期待する。



	R3	R4	R5
団体数	6	21	27
個人登録者	0	88	105
参加市町村	5	11	13
オンラインサポーター	0	28	51

尚、令和6年度は本事業で活用したLINE公式アカウント「脳若365」のトークデータを利用者に同意を得たうえで「チャット型コミュニケーションを利用した地域高齢者の行動変容と認知症予防に関する研究」に発展させる。県担当者との共著で論文発表、9月国際ジェロテクノロジー学会にて発表予定。

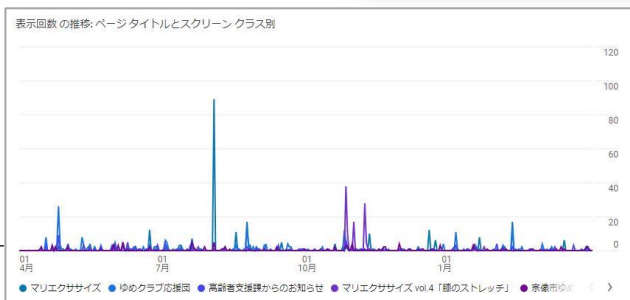
## 【熊本市 介護予防サポーター養成及びフォローアップ事業～地域資源マッチング試行～】

令和5年度は、介護予防サポーターの役割を明確にしつつ、前年度可視化した地域資源を活用するため、地域資源のマッチングを試行として展開させた。10月に開催したフォローアップ講座（既存サポーター及び5年度新規サポーター対象）では、マッチング試行事業についての意義と流れを説明、事業への参加を表明された79名（令和6年3月31日現在の登録者数）の介護予防サポーターにより令和5年10月からマッチングの試行を開始、案件数は3月末までに56件あり、サポーターの得意を活かした活躍が見られた。また、熊本市5区サポーターが一同に会する参集型の全体会を開催し、51名が参加、各区福祉課、ささえりあも含め約80名で交流が実現した。区をまたいだ交流と地域資源マッチングの実績報告を行ったことで、熊本市介護予防サポーターとしての役割確認と、地域での活躍の必要性を改めて感じ、意識醸成を図った。今後は、動き出したサポーターとしての活動や意識の芽生えを消えさせることなく継続支援が必要と考える。

尚、令和6年度はマッチングの人件費削減、個人情報漏洩リスク回避を目的にシステム化を試行の予定。

## 【福岡県宗像市 地域介護予防活動支援事業】

2層協議体の組織化の一環としてサポーター「ゆめクラブ応援団」を2期生から4期生までを輩出し、自主的な定例会開催までをサポートした。当会の提示する「大道具箱理論」を各期で提唱し、半期に1度の合同定例会にて活動発表およびマッチングを行った。LINE公式アカウント「脳若365」を利用しながら通いの場や居場所づくりを促進し、期（地域）をまたいだ活動等も第2層SCと連携しながら活動をサポートした。組織化を図るためのツールはLINE公式アカウント脳若365であり、配信することで知ってほしい情報を必ず閲覧する仕組みが確立している。



LINEで毎日配信することでコミュニケーションが円滑に行われるようになると、必要な情報を配信した際に必ず閲覧するルーティンが生まれる。上記グラフは、LINEからの促しメッセージが行われるとWEBページのページビュー数が増えることを示す。

## 【佐賀県江北町 生活支援体制整備事業】

生活支援の仕組み立ち上げから関わり、「へそのまちお助けサポーター」の活動である生活支援では、LINE公式アカウント「脳若365」にてマッチングを行っている。案件依頼をサポーター限定で配信し、カスタマーセンターにて手動マッチングする。案件成立、キャンセルになった場合の再募集等、LINEならではのスピード感ある対応が実現している。本事業ではマッチングのみであり、個人情報のやりとりは行っていない。（マッチング後結果をSCへ）

## 【千葉県白子町 介護予防システム利用】

地域の支えあい情報の共有を目的に、町の情報、健康づくりに関する情報などを配信した。白子町で活躍する介護予防サポーター、認知症サポーター、ボランティア、体操教室参加者へ配信している。また、通いの場や生活支援情報が地図で確認できる「知っ得マップ」を完備。サポーターとはテキストコミュニケーションが毎日繰り返される。カスタマーセンターは遠方だがオンラインならではの取り組みが実現している。